

Yayoi Takano-Beck 高野ベック弥生

ピアノ

千葉県千葉市出身、高野ベック・弥生は、学問と芸術の家系出身。ドイツ、ゲッチンゲンで育つ。

3歳で母親の手ほどきよりピアノを始める。一方、祖母（日本舞踊師範）から舞踊への強力なインパクトを受け、7歳で古典バレエを始める。

14歳のとき、著名なピアニスト、音楽学者である故ユルゲン・ウーデ教授に見出され、その助言により、職業ピアニストへの道を歩み始める。ウーデの個人教授、ゼミナールに参加により、音楽の哲学的、学問的思考と研究への道が開かれた。西ドイツの青少年音楽コンクール全国コンクールに11歳で2等入賞。

以降毎回1・2・3位に入賞。ハノーヴァー芸術大学では、ケマリング教授に師事、かたはら、古典バレエ科で研鑽した。その後、シュテュットガルト、バーゼル音大に転学、ジメシ教授に師事、コンサート・ピアニスト科を首席で卒業した。

ヴァルター・レヴィン（ラザール・クワルテット）ジョルジー・クルタック（ハンガリーの作曲家）マルコム・フレーガー（ニューヨークのピアニスト、音楽学者）ジェラルド・ヴィス（バーゼル音大室内楽教授）などからの個人的指導、ゼミナール参加等によりソリスト、室内楽奏者として大きなインパクトを得た。

1990年、シカゴ・ラヴィニア音楽祭に妹・えりかのバイオリンと共にタカノ・トリオは招待された。

1992年ブリュッセルの現代音楽祭ARS MUSICA では、クルタックの作品数曲を演奏。

ソリストとして、独奏、多くの交響楽団とピアノ協奏曲の共演、さまざまな室内楽演奏で放送録音。妹えりか及びその夫シュテファン・フォーク（Vogler-カルテット）のチェロとの共演もある。

特記すべきは、1992年以來5年間、往年のスペインの名ダンサーであり、カスタネット演奏家、ホセ・ダ・ウダエタとデュオで、ベルリン、ライブツィッヒ、スツットガルト、ヘルシンキ、マドリッドなどの国立歌劇場、国立劇場その他で古典音楽と舞踊の融合を試みて大成功をおさめた。セビラのマノロ・マリンの元へ留学して、フラメンコ舞踊を学び、スペイン音楽演奏に役立てている。アルベニス、グラナドス、デ・ファリア等の作品演奏は、スペインでも高く評価されている。

デュオ・パートナーとして前記演奏者のほかクリスティン・フォン・デア・ゴルツ（チェロ）、ジム・フレンクリン（尺八）などがある。時々フラメンコのダンサーや器楽奏者、歌手とのアンサンブルを組み編曲、振り付け、また自らダンサーとして、共演している。

演奏活動のかたはら、幼少年から音大学生の指導に成果をあげている。ピアノの弟子のなかから、ドイツ青少年音楽コンクールの全国区で一等賞受賞者をだした。